

設 立 趣 旨 書

1 趣旨

私たちは、近年失われつつある里山の生物多様性を守り、回復させること（ネイチャーポジティブ）を目的に活動しています。里山は、田畑・水路・溜池・雑木林・草地など、人が手入れを続けることで成り立つ環境であり、人による定期的な管理が原生自然とは異なる変化に富んだエコトーンを作ったため、豊かな生物多様性を育んできました。しかし近年、人々の生活様式の変遷により里山と人の経済的なつながりが急速に薄れ、管理放棄・荒廃・消失が進んでいます。とくに山間地の水田や溜池など水域の減少は深刻であり、そこに棲む生物の多くが絶滅の危機にあります。そのため、私たちは里山の水辺に棲む生きものに重点を置いた活動を展開してきました。

私たちの活動拠点である鮫川村および周辺地域は、谷戸地形の中に小規模な水田や溜池を有し、伝統的な里山景観が今なお残る貴重な地域ですが、一方でその消滅の最前線となっている現場でもあります。

私たちは広く各地からの有志が集まり、この地域を拠点として継続的に活動を行っています。まだ数年の短い活動期間ながら、休耕田を活用したビオトープ造成や溜池の維持管理に取り組み、希少生物の繁殖を実現するなどの成果を着実にあげてきました。しかし、遠隔地からの活動には限界があり、活動の成果を点から線に線から面に拡げていくには、地域に根ざした協力体制の構築が不可欠と考えています。私たちは、里山やそこに棲む生物に新たな形の魅力と価値を見出し、それを地域の人々に訴えていきます。これまで、生物観察会や生物展示などのイベント活動を展開し、また地域の人々に草刈などの作業にご協力頂いて共に汗を流してきましたが、この協力関係をさらに発展させ、より多くの方々と活動を共にしたいと考えています。

里山がもたらす恩恵は地域にとどまらず広く社会に及ぶものであるため、私たちは SNS 等を通じて情報発信することで、多くの人々からの小さな支援を集め、地域での活動に還元させる仕組みを構築していきます。また、他地域の団体とも積極的に情報交換し、連携していきます。

私たちが向き合う課題は、自然科学のみならず社会経済にも関わる多面的なアプローチが必要であるため、私たちが独力で解決できるものではありません。自治体・企業・研究機関など多様な主体との協働が不可欠であり、ときには契約行為が必要な連携も想定されます。さらに、地域の人々および広く国民から信頼と支援を得るためには、透明性・継続

性・公共性を備えた運営体制が求められます。こうした社会的要請に応えるため、私たちは特定非営利活動法人を設立し、それを基盤に活動していくことを決意しました。

2 申請に至るまでの経過

令和5年10月 鮫川村西山地区において休耕田を利用したビオトープを開設
令和6年5月 鮫川村大根屋敷地区において休耕田を利用したビオトープを開設
令和6年7月 鮫川村西山地区のビオトープでゲンゴロウの繁殖を確認
令和6年8月 鮫川村大根屋敷地区のビオトープでゲンゴロウの棲息を確認
令和7年5月 鮫川村春祭りでゲンゴロウの展示を実施
令和7年6月 鮫川村大根屋敷地区のビオトープで地元のボランティアと草刈会実施
令和7年7月 設立発起人 榊祐介、渡邊敦人が集い、NPO法人化を検討
令和7年10月 鮫川村大根屋敷地区のビオトープで子供達を集めて生物観察会を実施
令和7年10月 設立発起人会を開催し、設立の趣旨、定款、会費及び財産、令和7年度の事業計画、活動予算、役員案を審議し、決定
令和7年11月 設立総会を開催し、議案について承認され、申請に至る。

令和7年 11月 12日

特定非営利活動法人里山いきものネットワーク

設立代表者

榊 祐介

渡邊 敦人